



『 ぱんだより 』

※パンダからのお便りという意味で「ぱんだより」と名付けました。
 スパークスのアジア地域における情報発信レポート
 第92(2012年2月29日)中国返還15年目の香港



返還15年目の香港

1997年7月1日、香港特別行政区が成立しました。それから、既に15年が経とうとしていますが、この香港特別行政区が著しい変化を遂げています。香港は中国華南地域の物流ハブとして、高速鉄道網が整備されたことや、金融センターとして内外資本取引の自由化が進んでいることなどから、中国経済の重要な役割を担っています。

同時にもう一つ、香港の中国経済における重要な役割が、人民元の国際化の実験地域になっているということです。香港では、2004年人民元預金の解禁、2007年人民元建て債券の発行、2009年人民元による貿易決済など、人民元の国際化が着実に進められています。

こうした人民元の国際化の流れにより、香港の人たちの間では人民元預金のニーズが高まってきています。下のグラフのように、2004年解禁後、香港の人民元預金は順調に拡大しており、2011年末には約6,000億元まで積み上げられています。

香港の人民元預金



出所: 香港金融管理局



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『ぱんだより』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート



RQFII (RMB Qualified Foreign Institutional Investors) の誕生

2012年1月4日、中国人民銀行(中国の中央銀行)は「ファンド管理会社、証券会社のRQFIIによる国内での試験的な証券投資についての規則」の実施に関する事項を通知しました。これは、資産運用会社と証券会社の人民元適格海外機関投資家(RQFII)*の国内での試験的な証券投資業務を規定するものです。

今回のRQFII制度は、2010年外国銀行が中国国外で取得した人民元の本土市場人民元建て債券への投資解禁、また2011年外国企業による人民元建て直接投資の解禁に次ぐ、資本還流措置の第三弾です。当面の上限総額は200億元とされており、香港の人民元預金のニーズに比べればまだ程遠い規模ですが、一般投資家にもオンショア人民元建て債券へ投資する機会が得られるという意味で非常に大きな措置と考えられます。

香港証券先物委員会は制度発表以来、既に15本のRQFIIファンドを承認(2012年2月6日時点)しています。中国の発展を背景に通貨人民元も中長期的には上昇する可能性が高く、RQFII適用ファンドは通貨価値の上昇を享受できる魅力的な投資先と思われる、また、オンショア人民元建て債券の利回りは、現在香港のオフショアRMS債(ディムサム=点心債)を上回っており、この点でも魅力的な投資先と思われます。

*RQFIIについては、当社「ぱんだより」2011年12月第90号を参照。

(編集後記) 中国本土と香港の経済発展は、お互い両地域の発展に貢献しています。言語についても、北京語(標準語)を話す人口が返還15年目で初めて英語を話す人口を超えたという統計も出ており、今後も中国の一地域としての香港の発展から目が離せません。

(告られタイ)



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。